

3 受け口の作り方



7 下切りで水平を手直しし、接合線をびたりと合わせる。伐倒方向の手直しが必要なときは斜め切りで行なう



4 これが下切り。このときもチェンソーに刻まれたライン(矢印)を目安に伐倒方向に合わせる



2 小さく作った受け口。これをたたき台にして、微調整していく



1 木に体を寄せて倒したい方向を見て確認しながら斜め切りする。「斜め切り」と「下切り」どちらからでもよいが、斜め切りからのほうが切り過ぎることがないのでおすすめ。受け口は一発で作ろうとせず、2~3回手直ししながら作るとうまくいく。最初は小さめに



8 受け口は切り込む深さがこれくらい浅いほうがよい。ただし角度は大きいほうが、つるが最後までつながるので安全に倒れる。大きい角度の受け口を「オープンフェイス」ともいう



5 下切りの水平は離れて見てみるとわかりやすい。他の人にも見てもらい、相談しながら手直しすると面白い



3 これが斜め切り。チェンソー本体に刻まれたライン(バーと垂直の線: 矢印)を目安に伐倒方向に合わせて切るのがポイント



6 フェリングバーを受け口に当てると伐倒方向が予測できる

受け口は切り過ぎないこと

伐倒の準備ができれば、次は受け口を作ります。受け口は安全に倒すため、伐倒方向を決める重要な役目がありますので、とくに正確さが要求されます。

安全に倒すためには受け口の角度を大きくとることをおすすめします(51ページ下図参照)。角度が小さいと倒れる途中ですぐに受け口が閉じてつるがちぎれてしまいます。つるが早く切れると木はコントロールを失い事故の原因になります。

それから倒したい方向に正確に倒すためには、受け口の「斜め切り」と「下切り」を切り過ぎないように、それぞれの切り込み先(接合線)をびたっと合わせる必要があります。とにかく切り過ぎないこと。初心者の方にはこれが一番大事です。受け口の奥行きは木の直径の4分の1(大径木なら3分の1)を目安にしてください。